

- 98.11.22 (Sun).
- 海釣り公園
- 3:00 ~ 5:30 (P.M.)
- 杉野, 崎ちゃん, 菜ちゃん, No.

- キャスト
- 罎子 (25cm) ... No
 - 目バル (10cm) ... 菜, 崎

当初の予定では、プレート一台キャパギリギリ一杯の7人のはずが、風邪を引くは、何やらで、結局4人だけの出発と相なした。最近では寒さも出てきたので、アイヌ、罎子など、ボトムライン系が活性が上がっているだろうと読み、そのような戦略でいくことにした。柴田氏は、投げ釣りで鱈をゲットしようとも考え、ブラクソとの二刀流といった線を描く。

車検を明後日に控え、無理できないプレートの足回りが不安げなノイズが聞こえてきた。~~安全運転~~ "Safety Drive" で無事に海釣り公園に到着すると、既に晴陽は西の空にあたり、日没が5:00前後と考えると、持ち時間は2時間強。タイムトライアルが始まる。

開始早々、柴田氏が今日初の魚を釣り上げる。一口サイズの目バル。元気よくバケツの中を縦横無尽に泳ぎ回る。手前5mに藻地帯があり、根掛がかなり多量。エリヤでもあるが、魚影も比較的濃いこともまた事実だ。フィッシャーマンとしての葛藤はここに生じる。「釣れたー!!」でも「根掛がはなはなしい」
「食べたー!!」でも「やせたー!!」というあのジレンマと通ずるものがあると言えそう。

No Risk No Return! コレゴシ Spiritでガンガン危険地帯に針を落としまく。そうするうちに、Noの竿先に、「ガッン!!」と特大のアタリを感じた。先走りそうになる自分を、ギョッと抑えて、一息後、一気に合わせると、「ビクビクッー!!」というあの感触が伝わってきた。数ヶ月ぶりの魚の感触に、カムリどうになる自分を抑えて、一気に引き上げる。菜ちゃんの玉網サポットで、見事 25cm 級 罎子を釣り上げた。しかも子持ち罎子であった (Foto No.1)。そして、数分後、崎ちゃんの竿が大きく弓なりにしなり、見事 目バルを Get! 一口サイズだったので、次に会うのを期待して

リリース。アッという間に暗くなり、急いで帰り仕度をする4人。Noは、先程の罎子の首にナイフを突き立て、血抜きに取りがかる。地面のシートを赤い鮮血で染め、エラを海に帰すと、クレーボックス入直行。(Foto No.2)

柴田邸で、~~マホ~~ マホ豆腐と共に夕食の食卓へ。この時、崎ちゃんが軟カシ、オカシ系と、卵を抽出。杉野とNoも協力、両側に「X」印を刻み、~~湯汁~~ 煮汁の中へと~~煮汁~~ 沈んでいた。(Foto No.3)。鉄人柴田の調理が有オ、全員そろって、いざ試食。(Foto No.4)。Satisfaction!